



令和7年度 海南nobinos・下津図書館 おすすめブックリスト

タイトル	著者名	出版社名	刊行年	おすすめコメント
幼児				
ぼくのへや	伊藤 ハムスター//作	KADOKAWA	2023.3	あらいぐまの部屋は綺麗なのが普通らしい。たくさんの物に囲まれて過ごすぼくは、あらいぐま失格だ。思い切って皆に物を譲り、すっきりした部屋でぼくが思ったことは…。読者と一緒に宝物を探したくなる絵本です。
わすれていいから	大森 裕子//作	KADOKAWA	2024.2	当たり前で過ごしている日々の、足を止めて改めて見つめ直しました。子供の成長という嬉しくもうら悲しい気持ちを、お話と重ね合わせて涙しました。
リリとネネのどんぐりパンケーキ	田島 かおり//作	講談社	2024.9	おいしそうなパンケーキをみんなで作るお話です。 色々なたくさんの動物が登場し、楽しそうで温かい気持ちになります。
そそそそ	たなか ひかる//作	ポプラ社	2024.2	木にしがみつくコアラの親子。親の背中に子どもがたくさんくっついていて、ぷるぷるしています。木の下に落ちてしまうと思ったら、コアラの親子の足が突然にゅーんと伸びました。そして、そそそと歩き出し…!?面白くて可愛い「頭は良くならない絵本シリーズ」です。
あのひのきもち	かさいまり//作 岡田千晶//絵	金の星社	2025.1	仲のいいネズミとリスがいました。ある日ネズミは、リスが元気がないことに気付きました。お互いの気持ちを理解するためには、何が大切かを教えてくれるお話です。



タイトル	著者名	出版社名	刊行年	おすすめコメント
小学生低学年				
ピアノ	いせ ひでこ//作	偕成社	2023.1	のんちゃんがトイピアノで「カノン」を弾いていると、追いかけるように隣の森から同じメロディが聞こえてきました。音楽を通して人と人が繋がる様子に、心があたたかくなります。ピアノの優しい音色が聴こえてくるような、淡くてカラフルな絵も魅力的です。
わかったさんのスイートポテト (シリーズあります)	永井 郁子//作絵 寺村 輝夫//原案	あかね書房	2024.9	わかったさんの33年ぶりの新しいシリーズです。カラーも豊富に使われていて、読みやすくなっています。これを読むと、あなたもおかしをつくってみたいくなるはずです。
ねずみのパンや おいしいはなしにご用心	上野 与志//作 藤嶋 えみこ//絵	岩崎書店	2024.11	ともだちっていいね、と、きっとあなたも思うでしょう。大切なことはなにかを、きちんと伝えるおはなしです。
なまえのないねこ	竹下文子//文 町田尚子//絵	小峰書店	2019.4	町にいるねこ達には、みんな名前があり、その中に誰にも名前を付けてもらったことのないねこがいました。ねこ達それぞれがとても愛らしい表情をしています。名前のないねこが、本当にほしかったものに気付くまでを丁寧に描かれた絵本です。
あなたをずっとあいしてる	宮西たつや//作絵	ポプラ社	2015.5	「おまえ うまそうだな」の宮西たつや氏ががいた児童書です。きょうりゅうたちの家族の絆と優しさの繋がりの物語。少し大人になった小学生の人に読んでもらいたい本です。



タイトル	著者名	出版社名	刊行年	おすすめコメント
小学生中学年				
人形からとどいた手紙ーベルリンのカフカ	ラリッサ トゥーリー//文 レベッカ グリーン//絵 野坂 悦子//訳	化学同人	2023.11	公園で人形をなくして泣いている女の子のため、作家がとった行動は…。『変身』などで知られるフランツ・カフカの逸話をもとにした作品。やさしさと思いやりに満ちたお話です。
ぼくはぼんこつじはんき	由美村 嬉々//文 山本 久美子//絵	あさ出版	2024.11	モデルとなったじはんきは、50歳になったそうです。刊行に寄せては、「求めているのは、味じゃなくて、思い出」という言葉が書かれています。それぞれの大切な思いが積み重なったお話が素敵です。
どろぼう猫とイガイガのあれ	小手毬 るい//作 早川 世詩男//絵	静山社	2024.3	主人公の女の子は誰もがひとつはある「あれ」に苦戦中。イガイガの「あれ」とは何なのか？どろぼう猫は「あれ」をどうするのでしょうか。どきどきしながら次のページをめくってください。
りりかさんのぬいぐるみ診療所 空色のルリエル (シリーズあります)	かんの ゆうこ//作 北見 葉胡//絵	講談社	2021.11	壊れてしまったぬいぐるみを治療する「りりかぬいぐるみ診療所」では、色々な事情で壊れてしまったぬいぐるみを治療してくれるだけでなく、持ち主の心まで救ってくれるりりか先生がいます。心温まる不思議なお話がたくさんあり、癒されます。
出てこい写楽！～蕙重編集日記～	楠木 誠一郎//作 平沢 下戸//絵	静山社	2024.9	大河ドラマで話題の江戸時代の本屋さん蕙屋重三郎のお話。たった10ヶ月の活動期間で歴史に名を遺した謎の多い絵師東洲斎写楽。彼と蕙屋重三郎に関係があったとしたら。当時大活躍の十返舎一九、山東京伝、曲亭馬琴、葛飾北斎、喜多川歌麿も物語に大きくかかわってきます。



タイトル	著者名	出版社名	刊行年	おすすめコメント
小学生高学年				
みおちゃんも猫好きだよね？	神戸 遥真//作	金の星社	2024.7	かわいくて完璧に見える転校生のみおちゃんにも、秘密にしたいことがあると知り、色んな人の事情と世の中の助け合いの仕組みについて学んでいくお話です。知ること・伝えることが大切なんだと、人との関わり方を考えるきっかけになります。
まいどばかばかしいお笑いを！ (おはなし日本文化シリーズ)	赤羽 じゅんこ//作 フジタ ヒロミ//絵	講談社	2024.11	知っているようで知らない落語について、学べます。他のシリーズもお楽しみください。わかりやすい挿絵もあり、お話を通して日本文化の理解を深めることができます。
なんとかなる本 (樹木図書館のコトバ使いシリーズ)	令丈 ヒロ子//作 浮雲 宇一//絵	講談社	2023.10	樹木図書館の司書がかけるコトバの術で、あなたの悩み、解決しますー。誰にだって起こりうる大ピンチを、コトバの力を使ってどうやってのりこえていくのかに注目です！
スペルホーストのパペット人形	ケイト ディミカロ//作 ジュリー モースタッド// 絵 横山 和江//訳	偕成社	2024.8	男の子と女の子、王様とオオカミ、それとフクロウ。5つのパペット人形はとてもおしゃべり。いつも一緒にいる人形たちは孤独な老人に買われたことによって新しい世界へ旅立ちます。淡々と語られるお話が最後にたどり着く先は？続きが気になってどんどんページをめくりたくなるお話です。
千に染める古の色	久保田 香里//作	アリス館	2022.9	千古（ちふる）は13歳。装着（平安時代、公家の女子が成人したしるしに初めて装をつける儀式）が近く、千古以外皆忙しい。退屈していた千古が上総（かずさ）と出会い、染色に興味を持つ。そして、ある事をきっかけに屋敷を飛び出す。守られてばかりだった姫君が自立していく成長物語。



タイトル	著者名	出版社名	刊行年	おすすめコメント
中学生・高校生				
中学生からの絵本のトリセツ	川口 かおる//作	岩波書店	2024.6	絵本は子どものためのものだと思っていませんか？絵本に囲まれて働いている私ですら、そう思っている頃がありました。この本を読めば、あなたも図書館の絵本の棚を眺めるのがより楽しくなり、「推し」絵本を探したくなること間違いなし！
ぼくたちはまだ出逢っていない	八束 澄子//作	ポプラ社	2022.1	「漆」に導かれて巡り合った、中三の陸と中二の美雨。悩めるふたりが、伝統技法「金継ぎ」によってそれぞれの傷を修復する、癒しと再生の物語です。
みかんファミリー	椰月 美智子//作	講談社	2024.8	タイトルに惹かれて読みました。色々な家族の形って素敵ですよ。欠けている部分を人生経験や得意分野を活かして上手に補いあったりする感じが、バランスがとれて愛おしいです。
晴れ、時々くらげを呼ぶ	鯨井 あめ//作	講談社	2020.6	父を亡くしたあと、他者と関わりを持たず、毎日をこなすように生きてきた僕。ある日僕は、屋上で「くらげ乞い」をする奇妙な後輩と出会い…。 “優しさの本質は他者への興味だ。”という言葉が心に残る、青春小説です。
戦場の秘密図書館 シリアに残された希望	マイク トムソン//作 小国 綾子//編訳	文溪堂	2019.12	内戦下の町ダラヤに秘密の図書館があった。周囲は政府軍に完全封鎖され、食料・物資が不足していた。そのような状況下でも、地下にこっそりつくられた図書館に足しげく通う人々がいた。癒しや学びを求めて…。



タイトル	著者名	出版社名	刊行年	おすすめコメント
一般				
宙わたる教室	伊与原 新//作	文藝春秋	2023.1	定時制高校に通う年齢も事情も違う4人が、先生の声かけで科学部を結成し、「火星のクレーター」を再現する実験を始めます。先生の「その気になりさえすれば、何だってできる。」という言葉に胸が熱くなります。学生にも大人にも刺さる言葉がたくさんあるので、ドラマと併せて是非読んでみてください。
魔女たちのアフタヌーンティー	内山 純//作	KADOKAWA	2024.2	緑に囲まれた純和風のお屋敷で、双子の女主人によって開かれるお茶会。劇的な出来事は起こらないけれど、ゆっくり紅茶を淹れて自分を整えると、気づきの土壌が作られる。少し不器用な登場人物達が寄り添ってくれる気持ちになります。
リラの花咲くけものみち	藤岡 陽子//作	光文社	2023.7	引きこもりだった少女が獣医師を目指し、北海道の大学でいろんな仲間や獣医師、そして動物と出会い、命にかかわる試練に格闘しながら少しずつ成長していきます。その姿を通してあなたの心が洗われていっていることを感じる事ができる、そんなお話です。
俺たちの箱根駅伝 (上・下)	池井戸 潤//作	文藝春秋	2024.4	箱根駅伝本選へは出場できなかった選手が得た唯一のチャンス、それは、関東学生連合チームの一員として、記録のないオープン参加だった。きらめくスターたちを前にすべてをかけて走る選手と、視聴率抜群のテレビ放送において命を懸けるテレビマンたちの戦いを通して新しい箱根駅伝を楽しめますよ。
キラキラ共和国	小川 糸//作	幻冬舎	2017.1	祖母から受け継いだ文具店を営む主人公 鳩子(はとこ)。文具店のもうひとつの姿、代筆屋としても大忙し。次々にやってくる代筆の依頼と、鳩子自身の生活の変化。鎌倉を舞台にしたほっこりする物語。「ツバキ文具店」の続編です。